



北・その自然と人

札幌市博物館活動センター情報誌 ミューズ・レター

# Muse Letter

札幌市博物館活動センターは自然系総合博物館の計画推進のため、市民とともに教育普及活動、展示・交流、調査研究、資料収集保存を行う活動拠点です。

2013. 7 No.53 発行・札幌市博物館活動センター

〒060-0001 札幌市中央区北1条西9丁目 リンケージプラザ内5階

TEL 011-200-5002 FAX 011-200-5003 <http://www.city.sapporo.jp/museum/>

## 八重咲きの…

今年の大河ドラマ「八重の桜」のオープニングに登場する桜の大木は、会津若松市の天然記念物「石部桜<sup>いしべざくら</sup>」です。種類はエドヒガンで、八重咲きではありません。ご存じのようにサクラにはたくさんの品種があり、花の見た目ではソメイヨシノのような花びらが1列のものと、八重桜とよばれるたくさんの花びらが重なった形があります。八重咲きは、サクラの仲間だけではなく他の植物でも見られる現象で、いわゆる突然変異です。おしべやめしべの形が花びら状になり、花びらが何枚も重なったようにみえる“ゴージャス”な形になります。そうした「変わりもの」を選んで育てていき、現在にまで続く桜の品種がいくつも生まれました。

ドラマ「八重の桜」の主人公“八重”は鉄砲の名手です。江戸時代の女性としては「変わり者」だったかもしれません。さて、私が今回のドラマを欠かさず見ている理由は、私が八重を演じる綾瀬はるかさんの隠れファン(?)だからではありません。そこに登場する人物が後の北海道の歴史に大きくかかわっているからです。まず、会津藩主松平容保の側近・秋月悌二郎(北村有起哉)は、1865年蝦夷地代官として斜里に赴任しますが、すぐに会津藩の危機を救うべく呼び戻され戦争を避ける交渉に飛び回ります。しかし、その労は報われず、後に会津戦争の責任を取ることになります。そんな中、会津の優秀な青年を敵方であるはずの長州の知人に預けます。その一人が山川家三男の健次郎(勝地 涼)です。健次郎は北海道開拓を担う優秀な人材となるべく、1871年に黒田清隆とともにアメリカに渡った留学生の一人に選ばれます。ここに、後に八重の夫となる密出国中の新島襄(オダギリジョー)との接点があります。新島はアマースト大学でウィリアム・S・クラークから化学を学んでおり、クラークが札幌農学校(後の北海道大学)に赴任するきっかけとなりました。また、山川家の長女二葉(市川実日子)と結婚した梶原平馬(池内博之)は、24歳の若さで家老になり、会津戦争では秋月とともに停戦和睦に奔走します。その後、二葉と離婚し、廃藩置県後、青森県の職員となり、1881年に函館に渡り、さらに根室で暮らした後、47歳で亡くなったそうです。

まだまだ北海道に縁のある人物が登場してきますが、ドラマの展開を楽しみにして、このへんで終わりにしましょう。ドラマからは、桜の花びらがいくえにも重なるように、登場人物の人生が互いに重なり合い、過酷で波乱に満ちた時代が描かれていきます。そこからはゴージャスなだけではない散る八重桜の美しささえ感じる…といったらドラマチック過ぎるでしょうか。(古沢)



八重咲きのハマナス

※私は、歴史の門外漢で、間違い勘違いの点もあるかもしれません。もしそのような点がありましたら、ご教授いただきたくお願い申し上げます。

※文中のカッコ内は演じている役者さんの名前。

「博物館」を意味する英語Museumの語源であり、喜びを表すmuse(ギリシャ語)と通信や手紙を意味するLetter(英語)からMuseLetterと名付けました。

**十区十色**  
じゅっく・といろ

---

**豊平区**



トイピラと呼ばれた崖  
(精進川河畔公園)

ご存知のとおり、札幌は十区に分かれています。そして、それぞれの区にはそれぞれ特徴的な自然や独自の歴史があり、そこに住む人たちはそれぞれの出身区に深い愛着と誇りをもっています。このコーナーでは、それぞれの区の特徴を、自然系総合博物館の視点から眺めてみようと思います。

まずはどこから?と連載の順番を考えたとき、各区に失礼のないように、公平にと思い、十枚の紙に区名を書き込んでおみくじのように目をつぶってひとつをとりだしてみました(本当です)。紙を開くと、豊平区でした。

豊平区は「月寒台地」と呼ばれる火山灰の丘陵の上にあります。この火山灰台地は、今からおよそ4万年前、支笏火山の大火砕流によって作られました。火砕流は、高温の水蒸気やガスが火山灰といっしょに猛スピードで流れ落ちてくるもので、最近の例

だと長崎の雲仙普賢岳が思い起こされます。

区名となっている「とよひら」の語源は、アイヌ語の「トイピラ」。山田秀三氏によると「トイ」は「切れる、裂ける、崩れる」の意、「ピラ」は「崖(がけ)」を意味するそうです。この“くずれた崖”とはいったいどこにあるのかということが、時々話題にもなりますが、『地図の中の札幌』(堀淳一著)によると、精進川の右岸となっています。そこには、4万年前に形成された古い扇状地「平岸面」が、およそ1万年前に作られた新しい扇状地「札幌面」によって削られてできた長い崖があります(写真)。扇状地の堆積物ですから大小の石ころが積み重なった崩れやすい崖になっています。

豊平区の自然は、火山起源の火砕流の台地と豊平川起源の扇状地、“火”と“水”によって形成された台地ということができるでしょう。(古沢)

**連載!**

札幌っ子 大杉解説員の **心のスケッチブック**

**Page5 札幌の花 スズラン**

札幌の花であるスズランの魅力をお客様にお伝えるために、スズランのことを調べてみました。そして、わかった驚くべき(?) 事実は、花壇等でよく目にするスズランは外国産のドイツスズランであるということです。では、もともと札幌に自生するスズランはどこで見ることができるのでしょうか。

かつては札幌市内のいくつもの場所でスズランが見られましたが、現在、自生のスズランを見ることができる場所は限られています。

そこで、自生スズランの保全を行っている公園に実際に行ってみました。6月上旬に、スズランの良いかがりが園内に広がり、本当にかわいらしく可憐でした。スズランを保全しているのは近隣の住民のみなさんです。専門家の指導の下、保全作業を熱心に行い、その成果もあって年々スズランの開花数は増えているとのことでした。

(参考資料:手稲緑地通信 第9号)



スズラン (在来種、手稲区にて撮影)



ドイツスズラン (外国産)